

# 東北の自立的な復興・創生に向けた取り組み ～2018年度の復興支援活動を振り返る～

関経連では、東日本大震災以降、復興に向けた提言活動、ボランティアバスの派遣、東北企業の販路開拓支援など、被災地の復旧・復興の状況にあわせたさまざまな支援活動を継続的に行ってきた。震災から8年を迎えた2018年度の当会の支援活動として、福島県視察および組込みシステム産業の復興に向けた取り組みに焦点をあてて紹介する。

## 福島県を視察

当会では、震災の風化を防止するとともに、復興にあたっての課題や支援ニーズを調査するため、定期的に被災地を訪れている。11回目の視察となる今回は、2018年12月に関経連震災復興支援担当である博報堂の坂上和典特任顧問および三井住友銀行の伊藤雄二郎副会長らが福島県を訪問し、福島県が新たな産業基盤として位置づけている医療機器分野およびロボット分野における最先端の取り組みを視察した。

### ■医療機器分野での取り組み

医療機器分野における訪問先として、福島県の復興計画に基づき2016年11月に設置された「ふくしま医療機器開発支援センター」を視察した。同施設は医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設で、医療機器の疲労試験、防水試験をはじめとする物性試験や手術トレーニング、看護トレーニングといった医療関係者向けの人材育成の場として活用されている。医療機器開発のグローバルスタンダードに対応するため、2018年2月にISO 17025\*1を取得したほか、GLP\*2やAAALAC\*3などの認証の年度内取得もめざしている。



医療機器の操作性評価等で使用される模擬手術室



手術トレーニング機器の説明

滝澤眞己センター長は、同施設のユーザーに本社や研究所を関西に構える企業が多いことに触れ、「企業内の試験施設は稼働率が高く、満足に試験できないと聞く。当センターの活用により、医療機器の事業化までの動きを加速してもらいたい」と発言した。

また、心臓血管外科等の領域における血管縫合の手術トレーニング機器の開発・製造・販売を手掛けるベンチャー企業、イービーエムのふくしま製造開発センターも訪問した。朴栄光社長から、日本心臓血管外科学会等とともに医師の手術トレーニングに関する規格や評価方法の国際標準化にも取り組んでいることが紹介された。朴社長は「福島復興事業の助成金を活用して、福島で事業を行うというストーリーの展開がビジネスの強みになっている」と述べた。

### ■ロボット分野での取り組み

福島県は、東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域(福島県沿岸部)等の産業を回復するため、5つの新たな産業基盤(①廃炉研究、②ロボット、③エネルギー、④農林水産、⑤環境・リサイクル)の構築をめざす国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」を推進している。本構想に基づいて、5つの分野に関するプロジェク

トの具体化を通じた産業集積や人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでいる。



トイドローンの操縦体験

今回の視察では、2018年度から2019年度にかけて整備中である南相馬市内のロボット研究開発拠点「福島ロボットテストフィールド」を訪問した。同フィールドでは、陸・海・空のあらゆる環境を拠点内で再現しながら、災害対応、インフラ点検などを行うロボットの研究開発、実証実験、性能評価、操縦訓練を行うことが可能である。これまでに140件のドローンを活用した試験が行われ、来訪したロボット研究者数はのべ4,000人を超えるなど活用が進んでおり、今後、サービスロボットの開発・普及が加速するものと期待されている。

#### ■内堀福島県知事との面談

内堀雅雄 福島県知事との面談では、知事より当会の継続的な支援への謝辞や2025年万博の大阪・関西開催決定についてお祝いのコメントがあった。

内堀知事は、根強い原子力災害の風評被害に対しては引き続き正確な情報発信に取り組む決意を表明したほか、「福島の時計の針は止まっていない、未来に向けてしっかり歩んでいることを実際に肌で感じて知ってもらいたい」と述べた。



内堀雅雄 福島県知事との面談

#### 東北の組込みシステム産業を支援

当会では、組込みシステム産業振興機構等とともに、東北と関西の組込みシステム産業の振興に向け

た事業にも取り組んでいる。

東北や関西の組込みシステム開発企業が直接メーカーに技術提案できる出張型の展示会を定期的に開催しており、2018年度はデンソー本社（愛知県刈谷市）および村田機械本社（京都市）にて実施した。両方の展示会を合わせて、技術者ら約380名が来場し、活発なビジネスマッチングが行われた。

また2018年6月～11月には、組込みシステム産業振興機構が関西で実施している技術者育成講座「組込み適塾」を、遠隔配信を通じて宮城県でも行った。さらに、今年2月1日には「第8回全国組込み産業フォーラム」を大阪市内で開催。宮城県からの参加団体等も交え、地域や分野を超えた連携・交流がはかられた。



村田機械における出張型展示会の様子

#### 視察の評価と今後の取り組み

今回の福島視察を通じて、福島県内における医療機器・ロボット分野の取り組みが、当会の健康・医療産業およびAI・IoT／ロボット産業をはじめとする成長産業の振興に向けた取り組みと親和性があり、ビジネスベースで連携できる可能性があることが確認できた。

当会では、3月18日に今回視察を行ったふくしま医療機器開発支援センターおよびイービーエムを関西に招き、健康・医療専門委員会に所属する企業等との意見交換を予定しているほか、例年同様、東北3県（岩手県、宮城県、福島県）の復興に向けた取り組み状況等を紹介するセミナーと各県の物産を紹介する交流会を行うこととしている。

また、組込みシステム産業の分野における東北との連携についても、引き続き取り組んでいく。

- \*1 試験所が公正な測定結果を生み出す能力があるかを認定する規格
- \*2 医療機器の優良試験所認定規格
- \*3 国際実験動物管理協会による基準

（経済調査部 伏木椋也／産業部 田中喜美代）